

中国の保険業における規模の経済性と競争度

東京大学 袁 媛

関東学院大学 松田 琢磨

2001年には中国が世界貿易機関（WTO）に加盟したことで外資系の保険会社が中国の市場へ参入しやすくなった。外国資本の参入による外資系保険会社の競争のほかに、中国系の保険会者同士の競争も激しい。しかし、中国の保険市場の50%以上のシェアは民営化したかつての国有保険会社に占められていることから、中国の保険業の競争度は低いと考えられている。この研究では生命保険と財産保険の産業組織的な相違性と共通性を分析し、WTOの加盟による中国の保険業の変化を試みる。本稿では1999-2003年の中国の保険業にパネルデータを用いて、規模の経済性と競争度の指標であるPanzar-RosseのH統計量を推定している。

本稿の分析結果からは、保険料収入を規模と見た場合、生命保険業と損保保険業は両方とも規模の経済性を持つことが示された。総資産を規模とみなした場合は、生命保険業は規模の経済性を常に持つものの、損害保険業では2001年以降は規模の経済性を持っていないことがわかった。また、競争度については、生命保険業と損害保険業の両方とも2001年以降競争度が低くなる傾向があることがわかった。

JEL classification: G22; D21; L10

Keywords: Insurance; Scale Economy; Competitiveness; China